Vistamycin の臨床経験

牧山友三郎・神谷守雄・千田　豊
国立名古屋病院整形外科

吾々は最近明治製菓株式会社により研究開発された新しい抗生物質 SF-733 (Vistamycin) の提供を受け，臨床的にその効果を確認し得る機会を得たので，ここにその大要を報告する。

Vistamycin は三重県津市の土壌から分離された *Streptomyces ribosidificus* によつて生産された新抗生剤であり，基礎実験においてグラム陽性菌，とくにブドウ球菌，肺炎双球菌，肺炎桿菌，変形菌等に有効性を示し，動物実験において毒性の少ないことが確認されている。

A) 実験対象

当院ならびに関連病院に来院せる新鮮外傷例 20 例，化膿性疾患 14 例，手術後感染予防の目的に使用 6 例，計 40 例である。

全例に対し 500 mg を 3 ml の蒸留水に溶解し 1 日 1 回筋注した。

併用薬としては他の抗生物質との併用は避け，消炎酵素剤としてプロクターゼ P 3 Cap. を併用のもの 32 例，シノミン 2 g 併用のもの 6 例，単独使用 2 例である。

B) 臨床成績

表に示すとおり，12 才から 74 才にわたる 40 例である。症例 1→20 までの 20 例は新鮮外傷例であり，挫滅創に対してデブリートメントを施行後投与した。創の状態により 1 回筋注 1 例，2 日継続 5 例，3 日継続 8 例，4 日継続 2 例，5 日継続 3 例，7 日継続 1 例である。

症例 (19) を除いて全例に感染予防の目的を達することができたが，症例 (19) は軽度ながら膿の排泄が見られ他の抗生物質に変更を余儀なくされた。起炎菌は連鎖状球菌であつた。

化膿性疾患としては膿瘍 3 例，瘭疽 1 例，フレグモーネ 1 例，フルンケル 2 例，粉瘤化膿 2 例，急性化膿性淋巴腺炎 2 例，オステオ 2 例，下腿潰瘍 1 例である。

症例 (21) (22) (23) (24) (26) (27) (28) (29) の 8 例に対しては切開排膿を実施した。

化膿性疾患に対しては急性炎症が消失，すなわち局所熱感，発赤，圧痛，自発痛の消失した時に投与を中止し，切開実施例に対しては創の癒合をまたず排膿がまつたく見られなくなつた時期に投与を中止した。

ほとんどの症例が 3～4 日の連続投与にて所期の目的を達することが可能であり，切開例症例 (29) のみ膿の減量を見ず，6 日間投与後他の抗生物質に変更した。症例 (31) は左腋窩部に発赤，腫脹，疼痛と急性炎症著明で 8 日間の投与により急性炎症は消失したが，なお硬結が残存し手術をすすめたところ来院を中止し以後の経過不能のため効果は (±) と判定した。

骨髄炎の 2 例は数回にわたり再発を繰り返している慢性の，発赤，局所熱感，疼痛を訴えて来院した症例であり，5 日および 10 日間の投与で局所症状はまつたく消失した。根治手術の適応患者であるが，患者が納得しないために保存的療法として本剤を使用したものであるが，起炎菌は不明である。

症例 (38) は某医にて皮下肉腫切除後陥没した直径約 7 cm の噴火口状潰瘍で，肉芽形成きわめて不良であり緑膿菌感染例であるが 7 日間投与したが効果の出現を見なかつた。

術後感染予防の目的にて使用した 6 例には 1 次的に手術創の癒合が見られ，まつたく感染の徴候を見なかつた。

C) 副作用

全例になんらの副作用も見られず，一般状態のみならず，血液処見，肝，腎機能の障害発見等も見られなかつた。

D) まとめ

われわれは外傷 20 例，化膿性疾患 14 例，手術後感染予防の目的 6 例，計 40 例に Vistamycin 1 日 500 mg 1 回筋注を試み，きわめて優秀な効果を認めることができた。

外傷例は 1 例のみ無効であり 95% に感染を見ることなく 1 次的に創の治癒するのを見た。

感染例にては 14 例中 2 例に無効であり，85.7% に著明な効果を確認した。

手術後感染予防目的に使用した症例は全例に目的を達することができた。

症例も少いのであるが，本剤は副作用がきわめて少いようであり効果もきわめて優秀であるように考えるしだいである。

Vistamycin 治験 (1 vial 500 mg, 3 cc 蒸留水溶解筋注, 1 日 1 回)

	症例	年令	性	外来入院	病名	投与量	併用薬	副作用	効果	
1		16	♀	外	右前腕挫創	×4	なし	なし	(+)	
2		46	♀	〃	左足背部挫創	×3	シノミン 2.0	なし	(+)	
3		22	♂	〃	右手掌挫創	×3	〃	なし	(+)	
4		38	♂	〃	顔面挫創	×2	プロクターゼ P3Cap.	なし	(+)	
5		48	♀	〃	右中指挫創	×2	〃	なし	(+)	
6		14	♂	〃	顔面挫創	×2	〃	なし	(+)	
7		74	♂	〃	顔面挫創	×5	〃	なし	(+)	
8		42	♂	〃	左示指刺創	×3	〃	なし	(+)	
9		43	♀	〃	頭部挫創	×5	〃	なし	(+)	
10		52	♂	〃	右示環指挫創	×4	シノミン 2.0	なし	(+)	
11		39	♂	〃	頭部挫創	×3	プロクターゼ P3Cap.	なし	(+)	
12		22	♂	〃	左中指切創	×3	〃	なし	(+)	
13		35	♂	〃	右手背切創	×1	〃	なし	(+)	
14		38	♂	〃	左拇指挫創	×2	〃	なし	(+)	
15		42	♂	〃	左足挫滅創	×3	〃	なし	(+)	
16		31	♂	〃	左足挫滅創	×3	〃	なし	(+)	
17		29	♂	〃	右足挫創	×5	〃	なし	(+)	
18		18	♂	〃	左示指挫創	×2	シノミン 2.0	なし	(+)	
19		26	♂	〃	右中指挫滅創	×7	プロクターゼ P3Cap.	なし	(−)	
20		27	♀	〃	右示指挫滅創	×3	〃	なし	(+)	
21		14	♂	〃	右大腿膿瘍	×4	〃	なし	(+)	切開
22		22	♂	〃	左肘関節部膿瘍	×3	〃	なし	(+)	〃
23		38	♀	〃	右腋窩膿瘍	×3	〃	なし	(+)	〃
24		22	♀	〃	左第1趾瘭疽	×3	〃	なし	(+)	〃
25		20	♂	〃	右足背蜂窩織炎	×3	シノミン 2.0	なし	(+)	
26		24	♂	〃	右下腿癤	×3	プロクターゼ P3Cap.	なし	(+)	切開
27		22	♀	〃	顔面癤	×2	〃	なし	(+)	〃
28		28	♂	〃	顔面化膿性粉瘤	×2	〃	なし	(+)	〃
29		21	♂	〃	右耳介化膿性粉瘤	×6	〃	なし	(−)	〃
30		63	♂	〃	右頸部急性化膿性リンパ腺炎	×5	〃	なし	(+)	
31		12	♀	〃	左腋窩急性化膿性リンパ腺炎	×8	シノミン 2.0	なし	(±)	
32		35	♂	〃	右大腿骨慢性化膿性骨髄炎	×5	プロクターゼ P3Cap.	なし	(+)	
33		49	♀	〃	左脛骨 〃	×10	〃	なし	(+)	
34		13	♂	入	左大腿骨骨折(既手術)	×7	〃	なし	(+)	抜釘
35		33	♂	〃	右下腿骨骨折	×10	〃	なし	(+)	骨接合術
36		25	♂	〃	左大腿下腿骨骨折	×10	〃	なし	(+)	〃
37		19	♀	外	右第5趾骨折(既手術)	×3	なし	なし	(+)	抜釘
38		43	♀	入	右下腿潰瘍	×7	プロクターゼ P3Cap.	なし	(−)	
39		40	♂	〃	椎間板ヘルニア	×5	〃	なし	(+)	骨髄核摘出術
40		22	♂	〃	右外反肘	×7	〃	なし	(+)	骨切り術

CLINICAL EXPERIENCE WITH VISTAMYCIN

TOMOSABURO MAKIYAMA, MORIO KAMIYA and YUTAKA SENDA
Clinic of Orthopedics, National Nagoya Hospital

Vistamycin was administered intramuscularly for 1~10 days at a daily dose of 500 mg therapeutically to 20 cases of trauma and 14 cases of suppurative infection and prophylactically to 6 cases of possible postoperative infection. The results obtained were effective in 19 cases, 12 cases and 6 cases respectively. No side effect was observed.